

2016.4

事務局（地独）京都市産業技術研究所 デザインチーム（担当:比嘉,竹浪,木戸）  
〒600-8815 京都市下京区中堂寺粟田町91  
TEL:075-326-6100(代表) FAX:075-326-6170(代表)

# No.5 京都工芸研究会便り

## 1. 竹編組勉強会 発表会 「見てくだ祭!」



竹編組勉強会発表会「見てくだ祭!」は、1年間で実施した課題作品の他、勉強会参加会員10会員の竹工芸品33点、竹工芸品製作用の道具類、竹編組の文献資料など、盛りだくさんの展示となり、大変見応えある内容でした。

勉強会参加会員の作品として、花籠類、バッグや盛り器などありそれぞれの作品に各会員の竹編み技術の特色が活かされた作品に来場者も熱心に見ておられました。課題作品では、ダイヤ風、おはじき飛ばし、回転する蜻蛉のオブジェや、ゴム鉄砲などが人気。また、ペーパーナイフは、竹をナイフでナイフ形に切り、サンドペーパーで研ぎ上げて油で艶を出して仕上げたもので、会場では来場者を対象に製作体験を行いました。竹工芸製作に使われる道具類の展示で非常に興味深いものとしては、掛け花籠、四角の箱、釣瓶、末広籠などの「編み型」があり、普段目にする事のない道具であるだけに会員からも「参考にしたい」との声がありました。

丸竹の皮を剥ぎ取るという大技の作業の実演も行われ会員同士でもあらためて竹工芸の技術の幅広さを学ぶことのできる展示会となりました。



会場は勉強会講師の小川進氏(研究会委員)の工房をそのまま再現したかのような状態に。

竹編組勉強会は、毎月第三木曜日の16:30~20:00で開催しています。随時参加可能です。見学、参加希望などは事務局までお問い合わせください。



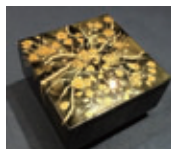
- ◇日時 平成28年2月26日(金)~28日(日)  
10:00-17:00(最終日は15:30まで)
- ◇場所 京都伝統産業ふれあい館  
イベントルーム
- 主催 京都工芸研究会
- 共催 (地独)京都市産業技術研究所  
京都ものづくり協力会  
(公財)京都伝統産業交流センター
- 協賛 竹文化振興協会  
京都竹材商業協同組合  
京都竹工芸品協同組合

## 2. 伝統産業技術後継者育成研修漆工コース修了作品展

漆工コースは漆の基礎から専門的な蒔絵技法までを2年間で学ぶ研修制度です。今年は、修了生が5名、各自7点の課題作品(パネル、丸盆、乾漆造形、飾箱、ハガキ入、花入、デザイン開発製品)を製作・出品する事が出来ました。修了生がものづくりの世界で活躍できるよう今後ともご注目・ご支援ください。

- ◇日時 平成28年3月2日(水)~6日(日)  
10:00-17:00(最終日は15:30まで)
- ◇場所 京都伝統産業ふれあい館  
イベントルーム
- 主催 (地独)京都市産業技術研究所
- 後援 京都工芸研究会
- 共催 (公財)京都伝統産業交流センター

「儂くつよく」佐々木響子



### 3. 講演会「ウェブ・SNS等を効果的に活用した伝統産業の情報発信」

田尻敏寛氏(株式会社でんでん代表取締役)は世界に通用する日本発のレザーブランドを目指して「KYOTO Leather」を立ち上げています。姫路のタンナーと京都の友禅や西陣織の工芸技術を組み合わせた日本製にこだわったブランド戦略で、その取組により技能の継承や後継者の育成にも繋がると考えておられます。今回の講演会では、ウェブ、フェイスブック、インスタグラム等インターネット上のさまざまな情報発信サービスの活用方法について、ご自身のプロジェクトと絡めつつ解説いただきました。

#### <講演の概要>

ネットサービスを利用する人々の多くは、パソコンからスマホ(スマートフォン)に移行しています。国や地域によって使用するアプリの違いがあり、将来はそれらが入れ替わる可能性がある中、それぞれのビジネスの方向性によって発信するツールを選ぶ必要があります。

ビジネスでのネット利用は、まず何を発信したいのかをはっきりさせる必要があります。伝統産業で言えば「商品なのか伝統工芸品なのか」を明確にすることが大切でしょう。「商品」なら機能性やデザイン、「伝統工芸品」なら技術や美しさ、歴史や文化に着目して発信したいことを吟味します。大切なのは価値のあるストーリーを伝える事であり、それを一目で伝えるためには、写真、動画、キャッチコピーが大変重要です。

近年のウェブはシンプルなデザインが顕著であり、中でもトップページの画像はアイキャッチとして重要です。しかしながら、デザインに凝るよりも定期的な情報発信のほうが大事です。デザインはかっこ良くても更新されないウェブより月に一回でも更新するフェイスブックページの方が情報発信という意味ではよいのです。話題のインスタグラムは、始めやすく敷居が低い分、載せる写真や動画に対して求められるクオリティは高くなっています。どのツールにも更新にかかる経費や時間などのコストがかかります。会社の事情に併せてどのツールを使うのかを検討しましょう。ネット利用も大切ですが、自社商品の品質をあげることのほうが大切なのですから。

また、印刷コストが下がっている今、自社を紹介する紙媒体も見直すことが大事だと思います。ただ、最終的にはビジネスパートナーや顧客との直接の人間関係の構築こそが大切で、ネットサービスはあくまでそのツールの一つであると考えてのがよいでしょう。



◇日時 平成28年3月25日(金)  
14:30~17:30  
◇場所 京都市産業技術研究所  
◇内容 基調講演とディスカッション  
◇講師 田尻敏寛氏  
(株式会社でんでん 代表取締役)

#### 第2部の会場とのディスカッションでの主なご意見・ご発言

- ・西陣織:商品を持ってだけ考えるのではなく、素材として展開することの可能性をヒントとして得た。
- ・漆工芸:ウェブ運営からフェイスブックページに切り替えた。誰でも見られるアプローチしやすいページづくりを目指して、記事の内容が分かる見出しのような最初の1行を入れたり、アップデートする曜日や時間帯の工夫をして、閲覧数や「いいね!」を増やすなど努力している。
- ・陶磁器:ウェブはエンドユーザーの獲得を目的としている。従来からの販路にプラスαとしてとらえている。SNSは顧客や友人との交流のツールである。しかし、それだけではなく、実際の人のつながりが大事。
- ・金工芸:HPは販売目的ではなく名刺代わり。つまり工房の事業実績の紹介用でありそれを見たことでの受注はある。掲載写真から同じものを作られた経緯もあるのでそこは要注意である。フェイスブックもしているが、それで仕事は来る訳でなく、仕事は人間関係で得ていると思っている。

#### 事務局より

- 2016年4~5月の主な予定  
4/21(木) 16:30~20:00竹編組勉強会(参加随時)  
5/13(金) 10:00~12:00第1回委員会
- 京都市産業技術研究所は、今年、創設100周年を迎えます。本年度に各種記念事業を予定しています。ご協力・ご注目よろしくお願いたします。



#### つぶやいていいですか。

No.3でつぶやいていたアメリカザリガニが死んでしまいました。生きてるときからあまり動かないし鳴かないし愛想も無かったのに死んでみると意外と寂しいもんだなとしみじみしてたら、エアーポンプの雑音が消えた静かさでした。(た)